

私達が目指す精神科病院の機能

医療法人財団松原愛育会 松原病院 理事長 院長 松原 三郎



戦争や経済発展を優先してきた20世紀が終わり、個人が自らを振り返り、自らの満足や心の安定を求めるようになった。21世紀はこころの時代と言われているが、それでも、景気は低迷し、就職すらままならない。個人主義を追い求めても、それを支える基盤が大きく揺らいでいる。私達は、「不安定なこころの時代」の中にあると言えるのではないか。

これまで、精神科病院医療は統合失調症を中心に機能を果たしてきたが、最近では噴出してきたこころの問題に幅広く対応することが求められている。うつ病性障害の急激な増加、ますます複雑化する不安障害、依存症、物質使用障害、そして、400万人をこえると思込まれる認知症。また、別の局面では、自殺や引きこもりが増加し、一生の中で、精神科の受診が必要となる人は、全体の3分の1にものぼるとされている。

このような人達の全てを精神科病院において入院治療を行えるわけがない。入院治療は急性期部分に限定され、回復期になれば、在宅での療養をお願いすることになる。その分、病状が悪化した場合には、直ちに対応可能な診療体制（24時間精神科救急診療）を構築する必要があるし、また、在宅治療のために、訪問診療、訪問看護、訪問介護などの体制を整備する必要がある。

精神科病院は多機能でなくてはならない。先に述べた機能のほかに、院内では、心理療法、作業療法、院外では、在宅医療のためのデイケアやデイサービス、自立支援法事業所など、さまざまな機能がある。院内と院外の組織とが有効に連携して、高い機能を発揮することが必要である。それぞれの部署は、一定のラインにもとづいて機能しているが、それだけでは不十分であり、各部署が相互に連携する必要がある。利用者の方々の利便性を考えれば、自分が必要とする部署においても、統合された治療方針が示されることは、当然の希望であらう。当院では、各部署・各職種間の連携を強化するために、大が

かりな電子カルテシステムを導入する予定である。

しかし、これだけでは連携は不十分である。画面上だけの報告で事足りると思っていない。関係スタッフが集まって、顔を合わせながら意見を述べ合うことが必要と思っている。この一つの試みとして、本年9月から、「認知症総合センター」が発足した。当院では、認知症の相談、診断、治療（入院・外来）機能訓練、在宅支援（デイケア、デイサービス、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、お年寄り介護支援センター）などがあるが、認知症総合センターは、医療と介護の壁を取り払って、利用者に相互に連携しながら各種のサービスを提供しようとするものである。しかも、「顔を合わせながら」利用者のニーズに最も合致するプランをたて、実行後の結果を各職種が評価し、報告することが目的である。縦のラインと横の連携が組み合わされて、大きな効果をあげるものと期待される。この試みが成功すれば、「地域医療福祉総合センター」など、センター方式をさらに拡大したいと考えている。

これらのセンター方式の成功の鍵は、2つあると思っている。1つは、各部署のラインを越えて連携することの意味を、関係職員が良く理解している必要がある。部署間のセクト主義に終われば、この試みは成功しない。

もう1つは、地域の利用者の方々の信頼が得られるか否かである。より手厚い、レベルの高いサービスの提供を目指すことが最も重要であると思っている。

私達が目指そうとしている精神科病院医療は、利用者の方々にできるだけ質の高い手厚い医療と支援を提供することにある。それは、住み慣れた場所で、顔なじみの人達に囲まれながら、これまでの生活を変えることなく、精神科医療が受けられることを理想像としている。今年度から、院長に就任したが、変わらず、理想的な精神科医療を求めて、職員の方々とともに「チーム松原」の合言葉で進んでいきたい。

第19回

松原記念講演会を開催しました

認知症を地域で支えるー理解と対応そして予防ー

平成22年8月28日(土)午後2時、金沢市文化ホールにおいて「第19回松原記念講演会」が開催され、大ホールの会場に約350人の参加者がありました。

今回は認知症介護研究・研修東京センターの本間昭センター長を講師に招き、「認知症を地域で支えるー理解と対応そして予防ー」と題して講演いただきました。図・グラフやDVD、新聞記事の実例を紹介しながら、分かりやすく説明されました。

講師は、認知症になっても本人が望むところで、安心して生活を続けられることができるよう、認知症の人を包括的に支援することが医療と介護の目標であるが、認知症という病気に対する地域の偏見、医療・介護・行政関係者の認識・理解不足、生活を支えるための医療・介護サービスの不足が原因で、認知症の人たちが自分らしい穏やかな生活を続けられないケースが多い現状を説明されました。

また、認知症の場合は、物忘れを自覚しても、自分から医療機関を訪ねることが非常に少なく、受診のタイミングが、周囲の認知症に対する理解や認識度合いに左右されることが多いのが問題であり、だからこそ、家族・かかりつけ医・ケアスタッフを含めた地域の方々に向けた期待される役割が大きいと説明されました。そして、認知症の人を地域で支えるうえで、認知症に関する正しい知識を持つこと、早期発見・診断・治療、孤立を防ぐこと、何らかの役割与えてあげることが大切であると述べられました。



松原記念講演会は精神保健や社会福祉に関するテーマを選び、一般の方にも分かりやすい内容で平成3年より毎年開かれています。平成23年もこの時期に金沢市文化ホールにて行われます。入場は無料ですので、お気軽にお問い合わせください。

NEWS

開設

「デイサービスきまっし」

平成22年8月1日、とびうめ館にて「認知症デイサービスきまっし」が開設されました。

●事業内容 認知症対応型通所介護

認知症対応型通所介護とは？

認知症の利用者様が、できるだけご自宅で自立し日常生活を営めるように通所していただき、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談・助言や健康状態確認などの日常生活上のお世話、機能訓練を行います。それによって、利用者様の心身の機能の維持、社会的孤立感の解消とご家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります。

- 営業日 365日営業しています。
- 利用定員 1日12名まで利用できます。
- 対象の方 要支援1・2、要介護度1~5の認定を受けておられる方で、認知症と診断されている方。（認定をまだ受けていない方もご利用できます。ご相談下さい）
- 内容 小規模人数のため、個別対応を中心とした、利用様が生き生きとできる各種プログラムをご用意しております。また、そ日に行うプログラムは、当日皆様全員で話し合っ決めて決めます。

お問い合わせ：認知症デイサービスきまっし
電話：076-231-4141
FAX：076-231-4140